

**株式会社じゃばらいず北山との共同研究講座を新たに開設
～じゃばらいず北山・東京家政大学 じゃばら研究所～**

この度、東京家政大学では、株式会社じゃばらいず北山^{※1}からの支援を受け、令和3年4月1日に本学大学院に共同研究講座（以下、「講座」）「じゃばらいず北山・東京家政大学 じゃばら研究所」を開設します。

講座代表である澤田めぐみ 大学院人間生活学総合研究科教授は、和歌山県北山村の研究委託を受け、同村の特産品である柑橘類「じゃばら」^{※2}のスギ花粉症に対する有効性の研究に令和元（2019）年度から着手、その成果を論文として発表するとともにテレビ等でも紹介してきました。今回の講座は一連の研究成果を基盤に、花粉症の予防・改善はじめ「じゃばら」の含有成分の効果について多角的な研究をすすめる拠点として整備されます。

講座では、「ジャバラが含有するフラボノイド、中でもナリルチン、ナリングリンなどの生体調節機能の解明」を主テーマに、その効率的な抽出、培養細胞や動物実験などの基礎研究、臨床試験などを実施します。当初は抗アレルギー作用を中心に取り組みますが、生活習慣病予防効果、抗癌作用等にも研究を拡げていく予定であり、その研究成果を切れ目なく発信して参ります。

<共同研究講座の概要>

1. 講座名 じゃばらいず北山・東京家政大学 じゃばら研究所
2. 設置場所 東京家政大学大学院 人間生活学総合研究科
3. 設置期間 令和3年4月1日から令和6年3月31日（3年間）
4. 研究体制 人間生活学総合研究科教授 澤田めぐみ
家政学部栄養学科助教 富田 知里
共同研究員 和泉又兵衛
(株) じゃばらいず北山シニアマネージャー)

お問合せ先

（講座に関すること）

担当：じゃばら研究所 澤田、富田

TEL：03-3961-5498（大学院事務室）

E-mail：sawada-m@tokyo-kasei.ac.jp、tomida-c@tokyo-kasei.ac.jp

（取材に関すること）

担当：ヒューマンライフ支援機構産学連携推進室 伊藤

TEL：03-3961-5537, E-mail:orcc@tokyo-kasei.ac.jp

(澤田教授のコメント)

2019年のスギ花粉症シーズンから、じゃばらのスギ花粉症に対する効果を科学的に明らかにしたいと研究に取り組んでまいりました。2019年は即効性について検討し、その後は私の母校の東京医科歯科大学呼吸器科およびそのOB・OGと共同で、2020年は4週間の摂取による効果を調べるため臨床研究を実施しました。2021年はスギ花粉シーズンを通して摂取を続けた場合の効果を調査しています。

じゃばらの機能は、その他のアレルギー疾患に対しても有望と考えられ、気管支喘息に対する研究も予定しています。

(登録研究課題・論文等)

「スギ花粉症に対するジャバラパウダーの効果を検討する多施設、プラセボ対照、無作為化二重盲検による並行群間比較試験」特定臨床研究（臨床計画実施計画番号 jRCTs031190211）

「スギ花粉症に対するジャバラ顆粒の長期投与効果を検討する多施設、プラセボ対照、ランダム化二重盲検による並行群間比較試験」（臨床試験登録システム UMIN-CTR R000048142）

富田知里他「和歌山県北山村産柑橘類ジャバラの花粉症症状に対する効果および客観的な花粉症治療効果指標の探索」東京家政大学研究紀要 60（2）：19-24（2021）

澤田めぐみ他「スギ花粉症に対する和歌山県北山村特産の柑橘類ジャバラの有効性—ランダム化比較試験に参加した1症例の検討—」アレルギーの臨床 41（3）：62-68（2021）

※1

北山村のじゃばら事業が村から独立し民営化、2020年4月株式会社じゃばらいず北山として事業開始。社名の由来は、Jaba rise 北山（じゃばらが飛び立っていく）、Jabara is 北山（じゃばらは北山村のもの）から。1本だけの自生から始まったじゃばらは、現在約5,000本以上となる。池上輝幸 代表取締役社長はじめ多くのスタッフが、北山村役場から移籍。「じゃばらのさらなる知名度及びブランド価値の向上」を目指し、ジュースからお菓子まで魅力ある商品を開発、販売。

※2

「じゃばら」は和歌山県北山村特産の柑橘類で、ゆずと他の柑橘類が自然交配し、寒さに強い樹が残ったものと言われている。すごく酸っぱく、ちょっと苦く、でも独特の風味が後を引く。鬼が逃げるほど酸っぱく、「邪を払う」縁起物として知られている。このじゃばらが花粉症に良いのではと話題になったきっかけは、毎年大量に村にじゃばらを注文してくれる消費者の方からの「息子の花粉症がひどいのだが、じゃばらを食べると良くなる」という連絡から。